

# いきいき安心プランⅥ策定 のための市民アンケート調査

## 【調査分析概要】

<平成 28 年度実施結果>

- ①若年者調査
- ②一般高齢者調査（JAGES 調査）
- ③事業対象者・要支援認定者調査
- ④要介護認定者調査
- ⑤施設利用者調査

<平成 29 年度実施状況>

- ①介護事業所従事者調査（経営者・管理者）
- ②介護事業所従事者調査（従事者）
- ③介護事業所従事者調査（介護支援専門員）
- ④特別養護老人ホーム入所待機者調査
- ⑤町会・自治会等調査
- ⑥在宅介護実態調査

平成 29 年度第 1 回松戸市高齢者保健福祉推進会議

平成 29 年 7 月 19 日（水）

# 「松戸市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（いきいき安心プランVI）」 策定のためのアンケート調査結果（平成28年度分）について

## ○調査結果概要○

	若年者調査	一般高齢者調査 (JAGES 調査)	事業対象者・ 要支援認定者調査	要介護認定者調査	施設利用者調査
基準日	平成 28 年 11 月 1 日	平成 28 年 4 月 1 日	平成 28 年 11 月 1 日		
年齢区分	40 歳以上 65 歳未満	65 歳以上	40 歳以上	40 歳以上	40 歳以上
対象	介護保険の要支援・ 要介護認定を受けて いない市民	介護予防・日常生活 支援総合事業対象 者の特定を受けてい ない市民及び介護保 険の要支援・要介護 認定を受けていない 市民	介護予防・日常生活 支援総合事業対象 者の特定を受けてい る市民及び介護保険 の要支援の認定を受 けている市民	介護保険の要介護 の認定を受けてい る市民	介護保険施設等に 入所している市民
母集団	163,495 人	94,890 人	5,494 人	10,191 人	3,769 人
抽出日	平成 28 年 11 月 8 日	平成 28 年 10 月 14 日	平成 28 年 11 月 8 日		
標本数	3,000 人	8,000 人	5,000 人	9,000 人	1,500 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出				
調査期間	平成 28 年 11 月 28 日 ～12 月 26 日(礼状兼 督促状1回)	平成 28 年 11 月 14 日～12 月 5 日(礼状 兼督促状1回)	平成 28 年 11 月 28 日～12 月 26 日(礼状兼督促状1回)		
調査方法	郵送配布・郵送回収				
回収数	1,365 人	4,469 人	3,109 人	4,430 人	846 人
有効回収数	1,364 人	4,330 人	3,106 人	4,425 人	842 人
有効回収率	45.5%	54.1%	62.1%	49.2%	56.1%

## 「松戸市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（いきいき安心プランVI）」 策定のためのアンケート調査実施状況（平成29年度分）について

### ○調査概要○（平成29年7月11日時点）

	介護事業所従事者調査(経営者・管理者)	介護事業所従事者調査(従事者)	介護事業所従事者調査(介護支援専門員)	特別養護老人ホーム入所待機者調査	町会・自治会等調査
対象	経営者・管理者	従事者	介護支援専門員	入所待機者	町会長、自治会長、マンション管理組合長等
母集団	580 人	7,979 人	641 人	898 人	1,000 人
標本数	580 人	7,979 人	641 人	898 人	1,000 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出				
調査期間	平成 29 年 6 月 2 日～6 月 23 日				
調査方法	郵送配布・郵送回収				
回収数	320 人	2,435 人	337 人	350 人	346 人
有効回収数	320 人	2,433 人	337 人	350 人	341 人
有効回収率	55.5%	30.6%	52.6%	35.0%	34.7%

### ○調査概要○（平成29年4月3日時点）

	在宅介護実態調査
対象	要支援・要介護認定を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける方
母集団	人
標本数	646 人
抽出方法	調査期間中に調査対象に該当された人
調査期間	平成 28 年 12 月 21 日～4 月 3 日
調査方法	認定調査員による聞き取り調査
回収数	606 人
有効回収数	606 人
有効回収率	93.8%

## <調査結果：まとめ>

### 1. 総論

- ① 介護が必要となった時は、「自宅で介護を受けたい」との希望が高い
- ② そのためには、「(家族) 介護者のためのサービス」「緊急時等、柔軟に受けられるサービス」が必要であるとの意見が多い
- ③ 保険料負担の引上げを抑えるため介護に関する希望を可能な限り実現しつつ費用負担を軽減する対策も講じるが多い（また、現状のサービス水準を維持するために必要な保険料引上げであればやむを得ないが次いで多い）

そこで、本人が望む「自宅で介護が受けられるよう」な地域包括ケアシステムの更なる深化・推進が必要である。

また、その際には、在宅の限界点を高められるような、家族介護負担の軽減ができるようなサービスを構築すると共に、地域との協力ができるような共生社会を目指していくべきだと考えています。

さらに、今後の高齢化居の進展を踏まえれば、新たな需要となりえないような、自立期間の延伸も重要であります。

### 2. 調査分析結果に基づく計画の方向性

- ① 地域マネジメントによる自助・互助・共助・公助  
市民調査アンケート、日本老年学的評価研究（JAGES）、厚生労働省の見える化システム等のデータ分析等各種データに基づいた地域課題の明確化と地域マネジメントによる対策の推進  
（地域マネジメントとは、地域の実態把握・課題分析を通じて、地域における共通の目標を設定、関係者間で共有するとともに、その達成に向けた具体的な計画を作成・実行し評価と計画の見直しを繰り返し目標達成に向けた活動を継続的に改善する取組）
- ② 高齢者の社会参加による生きがいくりと効果的な介護予防の推進  
介護保険認定者にならないために、適切な情報提供とセルフマネジメントの啓発、基本チェックリストの積極的な活用による早期発見と早期支援、保持している潜在能力が発揮できるよう専門職による支援、役割見つけ活動性を高める多様な活躍の場や人とつながるバランスの良い介護予防の推進による健康寿命の延伸
- ③ 生活支援体制整備  
生活支援コーディネーターの配置、協議体の設置による地域活動の掘り起しと地域資源の把握、多様な主体の情報共有とネットワーク強化、住民主体活動の推進、地域マネジメントを活かした優先的な生活支援、多様な生活支援が安定継続的に提供できるよう段階的な整備
- ④ 介護保険の適正化  
限られた財源を効果的に活かすため、介護保険（共助）の本来の役割と意義について地道に、かつ、効果的に啓発を続け、意識共有（市民、事業所）を図るとともに、積極的に自立支援のための適切なケアマネジメントが行われるためのインセンティブづくり

⑤ 在宅の限界点を高める多様な介護サービス

中重度者に対する重度化防止の強化とともに、在宅における個々の実情に応じたサポート体制の充実（小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の整備等）により在宅生活の限界点を向上

⑥ 在宅医療介護連携の推進

在宅医療介護に関する情報提供、切れ目のない医療と介護の提供体制（特に退院後）、心身状態の変化および介護者の状況に応じた医療と柔軟な介護サービス、看取りまでの体制整備の推進

⑦ 認知症対策の推進

認知症予防プロジェクトによる認知症の人への早期支援、様々な世代・職種を対象に認知症サポーター養成講座での積極的な啓発、認知症予防活動から適切な医療やケアまでの対策を包括的に推進

⑧ 地域包括支援センターの充実

地域包括支援センター事業評価や研修等の充実による質の向上、多分野にまたがる支援および相談体制の充実、多様な機会を活用した地域包括支援センターの周知

⑨ 離職防止

上記各項目の構築により離職防止の推進につながる

⑩ 地域共生社会の実現のための取組

人材確保のための裾野を拡大するとともに、複雑化する住民ニーズに対応できる仕組みづくりとして地域共生社会の取組の開始

## ○回答者概要○

### (1) 性別

区分	若年者		一般高齢者		事業対象者・ 要支援認定者		要介護認定者		施設利用者		合計	
男性	598	43.8	2001	46.2	1009	32.5	1701	38.4	246	29.2	5553	39.5
女性	756	55.4	2318	53.6	2047	65.9	2660	60.2	593	70.4	8378	59.6
不明	10	0.8	8	0.2	50	1.6	64	1.4	3	0.4	133	0.9
小計	1364	100.0	4327	100.0	3106	100.0	4425	100.0	842	100.0	14064	100.0

### (2) 年齢

区分	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85歳 以上	不明	合計
若年者	203	274	243	301	331	-	-	-	-	-	12	1364
一般高齢者	-	-	-	-	-	1304	1166	1031	605	221	-	4327
事業対象者・ 要支援認定者	44					142	350	654	938	931	47	3106
要介護認定者	215					281	445	724	1020	167	63	4425
施設利用者	21					23	42	88	180	481	7	842

### (3) 地区別

地区名	若年者		一般高齢者		事業対象者・ 要支援認定者		要介護認定者		施設利用者		合計	
全体	1,364	100.0	-	-	3,106	100.0	4,425	100.0	842	100.0	9,737	100.0
本庁地区	108	7.9	-	-	174	5.6	252	5.7	30	3.6	564	5.8
明第1地区	88	6.5	-	-	306	9.9	361	8.2	38	4.5	793	8.1
明第2東地区	81	5.9	-	-	152	4.9	197	4.5	23	2.7	453	4.7
明第2西地区	80	5.9	-	-	149	4.8	225	5.1	42	5.0	496	5.1
矢切地区	81	5.9	-	-	105	3.4	204	4.6	30	3.6	420	4.3
東部地区	97	7.1	-	-	163	5.2	276	6.2	159	18.9	695	7.1
常盤平・常盤平 団地地区	156	11.4	-	-	426	13.7	510	11.5	109	12.9	1,201	12.3
五香松飛台地区	85	6.2	-	-	177	5.7	297	6.7	82	9.7	641	6.6
六実六高台地区	86	6.3	-	-	149	4.8	190	4.3	44	5.2	469	4.8
馬橋地区	89	6.5	-	-	187	6.0	309	7.0	43	5.1	628	6.4
小金地区	83	6.1	-	-	226	7.3	311	7.0	71	8.4	691	7.1
小金原地区	76	5.6	-	-	238	7.7	316	7.1	70	8.3	700	7.2
新松戸地区	87	6.4	-	-	174	5.6	260	5.9	13	1.5	534	5.5
馬橋西地区	78	5.7	-	-	79	2.5	167	3.8	35	4.2	359	3.7
無回答	89	6.5	-	-	401	12.9	550	12.4	53	6.3	1,093	11.2

## ○調査分析結果参考データ○

### 1. 背景

#### (ア) 現在の暮らしの状況（経済的）

	全体	大変苦し い	やや苦し い	ふつう	りがある ややゆと	りがある 大変ゆと	無回答	(計) 苦しい	ある(計) ゆとりが
若年者	1,364 100.0	166 12.2	414 30.4	562 41.2	186 13.6	18 1.3	18 1.3	580 42.6	204 14.9
一般高齢者	4,327 100.0	286 6.6	923 21.3	2,449 56.6	525 12.1	115 2.7	29 0.7	1,209 27.9	640 14.8
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	440 14.2	841 27.1	1,542 49.6	130 4.2	26 0.8	127 4.1	1,281 41.3	156 5.0
要介護認定者	4,425 100.0	696 15.7	1,333 30.1	2,037 46.0	179 4.0	33 0.7	147 3.3	2,029 45.8	212 4.7

#### (イ) 心のほり、生きがい

	全体	常に感じて いる	ときどき感 じている	あまり感じ ていない	ほとんど感 じていない	無回答	(計) 感じている	(計) 感じていな
若年者	1,364 100.0	385 28.2	611 44.8	230 16.9	63 4.6	75 5.5	996 73.0	293 21.5
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	676 21.8	1,194 38.4	871 28.0	173 5.6	192 6.2	1,870 60.2	1,044 33.6
要介護認定者	4,425 100.0	430 9.7	1,144 25.9	1,626 36.7	793 17.9	432 9.8	1,574 35.6	2,419 54.6
施設利用者	842 100.0	36 4.3	192 22.8	343 40.7	196 23.3	75 8.9	228 27.1	539 64.0

(ウ) 困りごとがあった時に相談できる人や窓口 【13個までの複数回答】

	全体	同居家族	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣・友人	町会・自治会	はつらつクラブ(老人クラブ)	社会福祉協議会	民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師・薬剤師	高齢者いきいき安心センター(地域包括支援センター)	市役所・支所	その他	そのような人はいない	無回答
若年者	1,364 100.0	981 71.9	285 20.9	634 46.5	528 38.7	18 1.3	- -	8 0.6	7 0.5	34 2.5	117 8.6	10 0.7	97 7.1	54 4.0	97 7.1	7 0.5
事業対象者・要支援認定者	3,106 100.0	1,319 42.5	1,473 47.4	694 22.3	589 19.0	85 2.7	24 0.8	49 1.6	208 6.7	1,129 36.3	585 18.8	466 15.0	165 5.3	49 1.6	109 3.5	144 4.6
要介護認定者	4,425 100.0	2,657 60.0	1,682 38.0	652 14.7	388 8.8	51 1.2	13 0.3	44 1.0	108 2.4	2,623 59.3	944 21.3	228 5.2	208 4.7	167 3.8	92 2.1	160 3.6

(エ) 情報収集

	全体	広報まつど	松戸市公式ホームページ	市ホームページ上の松戸市在宅医療・介護事業者情報検索システム	市ホームページ上の松戸市在宅医療・介護事業者情報掲載冊子、市の窓口等で配布	ハートページ(介護保険サービス事業所等の情報掲載冊子、市の窓口等で配布)	生活カタログ(全戸配布の行政情報冊子)	ながいき手帳(市独自の高齢者向けサービス(敬老祝金や配食サービス等)掲載冊子)	その他	知らない	無回答
若年者	1,364 100.0	949 69.6	601 44.1	104 7.6	52 3.8	384 28.2	28 2.1	19 1.4	250 18.3	14 1.0	
事業対象者・要支援認定者	3,106 100.0	2,202 70.9	193 6.2	260 8.4	165 5.3	860 27.7	194 6.2	116 3.7	429 13.8	195 6.3	

背景

- 回答者の経済状況は、どの層も「ふつう」「やや苦しい」の順に多い
- 心のはり・生きがいを「感じている」は、若年者、事業対象者・要支援認定者に多く、「感じていない」は施設利用者 64.0%、要介護認定者 54.6%を占める
- 相談できる人や窓口については、家族や子ども、兄弟姉妹・親戚等がどの層も大半を占め、地域包括支援センターは、事業対象者・要支援認定者 15.0%、要介護認定者 5.2%、若年者 0.7%
- 情報収集方法は、若年者 広報まつど 69.6%、松戸市公式ホームページ 44.1%、生活カタログ 28.2%、事業対象者・要支援認定者、要介護認定者は、広報まつど 70.9%、生活カタログ 27.7%、知らない 13.8%



## 2. 生活機能

### (ア) お茶や汁でむせる

	全体	はい	いいえ	無回答
一般高齢者	4,327 100.0	747 17.3	3,520 81.3	60 1.4
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	1,227 39.5	1,820 58.6	59 1.9
要介護認定者	4,425 100.0	1,999 45.2	2,278 51.5	148 3.3

### (イ) 過去1年転んだ経験

	全体	何度もある	1度ある	ない	無回答
一般高齢者	4,327 100.0	184 4.3	813 18.8	3,276 75.7	54 1.2
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	545 17.5	915 29.5	1,575 50.7	71 2.3
要介護認定者	4,425 100.0	1,313 29.7	1,167 26.4	1,824 41.2	121 2.7

### (ウ) 転倒の不安

	全体	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答	不安である (計)	不安でない (計)
一般高齢者	4,327 100.0	332 7.7	1,406 32.5	1,261 29.1	1,269 29.3	59 1.4	1,738 40.2	2,530 58.4
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	1,321 42.5	1,295 41.7	307 9.9	131 4.2	52 1.7	2,616 84.2	438 14.1
要介護認定者	4,425 100.0	2,424 54.8	1,267 28.6	384 8.7	202 4.6	148 3.3	3,691 83.4	586 13.3

### 生活機能

- ▶ 口腔機能低下のサインである「汁物でむせる」は、要介護認定者 45.2%、事業対象者・要支援認定者 39.5%、一般高齢者 17.3%
- ▶ 下肢機能低下のサインである「過去1年転んだ経験」は、事業対象者・要支援認定者 29.5%、要介護認定者 26.4%、一般高齢者 18.8%の順で、「何度もある経験がある」の回答は、要介護認定者が一番多く 29.7%を占める
- ▶ 「転倒の不安」は、事業対象者・要支援認定者 84.2%、要介護認定者 83.4%と多くを占め、一般高齢者は 40.2%が不安と感じている

(エ) 階段で手すりや壁をつたわず昇っているか

	全体	している できるし、 している	できない している	できない	無回答
一般高齢者	4,327 100.0	2,805 64.8	1,067 24.7	393 9.1	62 1.4
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	532 17.1	609 19.6	1,880 60.5	85 2.7
要介護認定者	4,425 100.0	500 11.3	466 10.5	3,342 75.5	117 2.6

(オ) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか

	全体	している できるし、 している	できない している	できない	無回答
一般高齢者	4,327 100.0	3,555 82.2	487 11.3	227 5.2	58 1.3
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	1,084 34.9	589 19.0	1,333 42.9	100 3.2
要介護認定者	4,425 100.0	863 19.5	498 11.3	2,944 66.5	120 2.7

(カ) バスや電車の独り外出

	全体	している できるし、 している	できない している	できない	無回答
一般高齢者	4,327 100.0	3,921 90.6	274 6.3	98 2.3	34 0.8
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	1,773 57.1	390 12.6	855 27.5	88 2.8
要介護認定者	4,425 100.0	582 13.2	365 8.2	3,391 76.6	87 2.0

(キ) 昨年と比べた外出回数

	全体	減っていない	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答	(計) 減っている	(計) 減っていない
一般高齢者	4,327 100.0	66 1.5	659 15.2	1,391 32.1	2,167 50.1	44 1.0	725 16.7	3,558 82.2
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	356 11.5	1,191 38.3	867 27.9	610 19.6	82 2.6	1,547 49.8	1,477 47.5
要介護認定者	4,425 100.0	799 18.1	1,423 32.2	993 22.4	975 22.0	235 5.3	2,222 50.3	1,968 44.4

## 外出

- 「バスや電車の一人外出」は、「できない」が、要介護認定者 76.6%、事業対象者・要支援認定者 27.5%、一般高齢者 2.3%  
「できるけどしていない」は、事業対象者・要支援認定者 12.6%、要介護認定者 8.2%、一般高齢者 6.3%
  
- 「昨年と比べた外出回数」では、「減っている」「減っていない」の総数を比較すると、要介護認定者と事業対象者・要支援認定者は、「減っている」割合が多い。  
また、一般高齢者でも 16.7%が昨年より外出回数が減っており、事業対象者・要支援認定者と要介護認定者の外出回数の減り方はほぼ同率

### 3. 地域のつながり、地域活動、社会参加

#### (ア) ご近所との付き合い方

	全体	互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている	度のつきあいはしている	日常的に立ち話をする程度	つきあいが少ない	つきあいは全くしていない	無回答
若年者	1,364 100.0	95 7.0	370 27.1	723 53.0	105 7.7	71 5.2	
一般高齢者	4,327 100.0	597 13.8	2,275 52.6	1,292 29.9	104 2.4	59 1.4	
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	385 12.4	1,422 45.8	959 30.9	172 5.5	168 5.4	
要介護認定者	4,425 100.0	275 6.2	1,228 27.8	1,782 40.3	873 19.7	267 6.0	

#### (イ) グループへの参加（ボランティア）

	全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	参加している（計）	参加していない	参加している
一般高齢者	4,327 100.0	55 1.3	106 2.4	118 2.7	228 5.3	187 4.3	3,026 69.9	607 14.0	694 16.0	3,026 69.9	
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	26 0.8	114 3.7	125 4.0	190 6.1	132 4.2	2,069 66.6	450 14.5	587 18.8	2,069 66.6	
要介護認定者	4,425 100.0	7 0.2	31 0.7	15 0.3	44 1.0	44 1.0	3,892 88.0	392 8.9	141 3.2	3,892 88.0	

#### (ウ) 介護予防活動

	全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	参加している（計）	参加していない	参加している
一般高齢者	4,327 100.0	58 1.3	71 1.6	62 1.4	70 1.6	121 2.8	3,378 78.1	567 13.1	382 8.7	3,378 78.1	
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	34 1.1	326 10.5	441 14.2	100 3.2	58 1.9	1,781 57.3	366 11.8	959 30.9	1,781 57.3	
要介護認定者	4,425 100.0	64 1.4	287 6.5	155 3.5	50 1.1	26 0.6	3,391 76.6	452 10.2	582 13.1	3,391 76.6	

## (エ) 地域活動への参加意向 (企画)

	全体	い 加 し た 非 参	い も よ 参 加 し	い た く な 参 加 し	無 回 答
一般高齢者	4,327 100.0	109 2.5	1,403 32.4	2,440 56.4	375 8.7
事業対象者・要支援認定者	3,106 100.0	55 1.8	682 22.0	1,896 61.0	473 15.2
要介護認定者	4,425 100.0	49 1.1	423 9.6	3,464 78.3	489 11.1

## (オ) 地域活動への参加意向 (参加者)

	全体	い し た い 非 参 加	い も よ 参 加 し て	い く な い 参 加 し た	無 回 答
一般高齢者	4,327 100.0	191 4.4	2,109 48.7	1,678 38.8	349 8.1
事業対象者・要支援認定者	3,106 100.0	189 6.1	1,187 38.2	1,335 43.0	395 12.7
要介護認定者	4,425 100.0	90 2.0	830 18.8	3,039 68.7	466 10.5

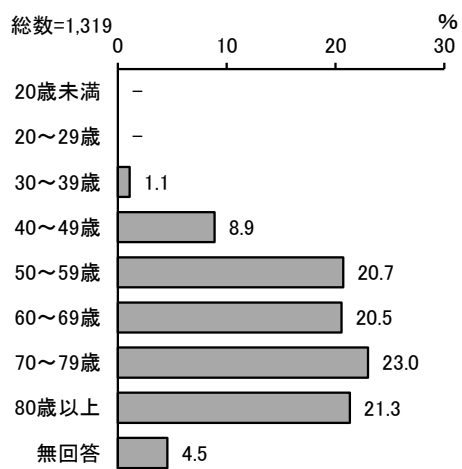
## 地域のつながり、地域活動、社会参加

- 「近所との付き合い方」のうち、「全くしていない」は、要介護認定者 19.7%、若年者 7.7%、事業対象者・要支援認定者 5.5%、一般高齢者 2.4%
- 「ボランティアグループ活動」のうち、「参加していない」が、要介護認定者 88.0%、一般高齢者 69.9%、事業対象者・要支援認定者 66.6%
- 「介護予防活動」のうち「参加していない」は、一般高齢者 78.1%、要介護認定者 76.6%、事業対象者・要支援認定者 57.3%
- 「地域活動への参加意向」は、「企画での参加」又は「参加意向がある」は、一般高齢者 34.9%、事業対象者・要支援認定者 23.8%、要介護認定者 10.7%
- 「参加者として参加」は、「是非参加したい」又は「参加してもよい」は、一般高齢者 53.3%、事業対象者・要支援認定者 44.3%、要介護認定者 20.8%

#### 4. 介護者の年齢

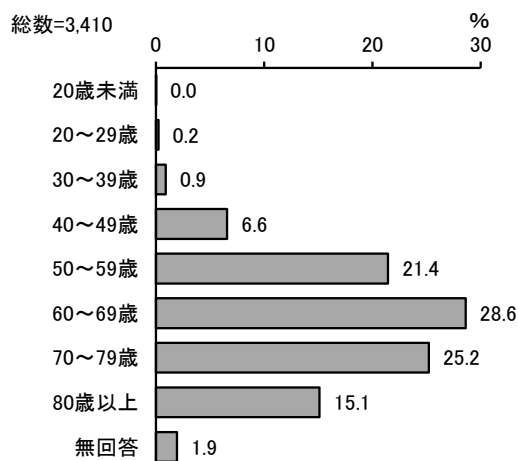
あなた（主な介護者）の現在の満年齢をご記入ください。（平成28年4月1日現在）

<事業対象者・要支援認定者>



「70～79歳」が23.0%と最も多く、次いで「80歳以上」が21.3%、「50～59歳」が20.7%、「60～69歳」が20.5%と続いています。

<要介護認定者>



「60～69歳」が28.6%と最も多く、次いで「70～79歳」が25.2%、「50～59歳」が21.4%、「80歳以上」が15.1%と続いています。

## 5. 介護に関する考え方等

(ア) 介護が必要になった時、どのような介護を希望するか

	全体	自宅で家族中心に介護を受けたい	自宅で家族と外部のサービスを組み合わせて介護を受けたい	介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい	家族に頼らずに生活できる介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい	ケア付き高齢者住宅などに住み替えて介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい	医療機関に入院して介護を受けたい	その他	無回答
若年者	1,364 100.0	116 8.5	407 29.8	374 27.4	225 16.5	125 9.2	49 3.6	50 3.7	18 1.3	
一般高齢者	4,327 100.0	443 10.2	1,287 29.7	1,088 25.1	390 9.0	430 9.9	178 4.1	77 1.8	434 10.0	
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	319 10.3	728 23.4	718 23.1	235 7.6	263 8.5	170 5.5	53 1.7	620 20.0	

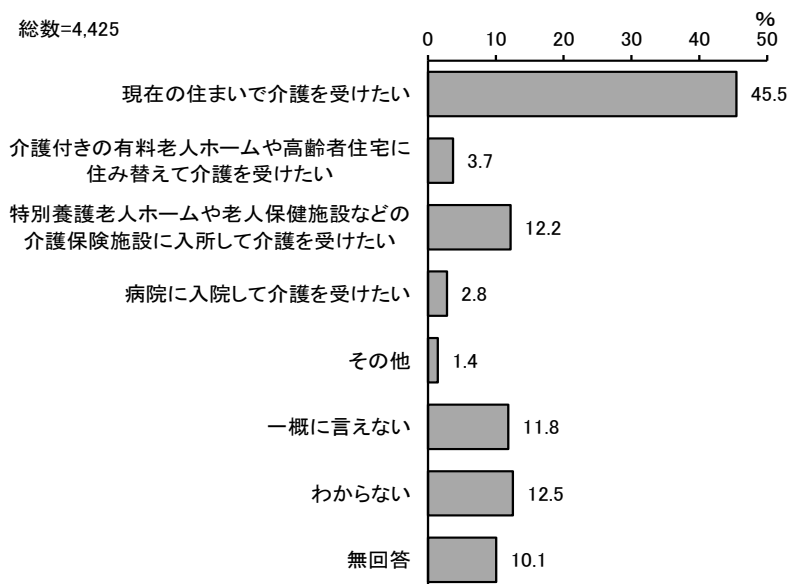
### 介護に対する考え方

- ▶ 「介護が必要になった時にどのような介護を希望するか」について、若年者、事業対象者・要支援認定者、要介護認定者いずれも「自宅で家族と外部のサービスを組み合わせる」が最も多く、次いで「家族に頼らずに生活できる介護サービスがあれば自宅で受けたい」、「自宅で家族中心の介護」の順で、自宅で何らかの介護を受けたい場合が5割以上を占める

(イ) 「要介護認定者」 単純集計から

今後どこで介護を受けたいと思いますか。

「現在の住まいで介護を受けたい」が45.5%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」が12.2%、「介護付きの有料老人ホームや高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」が3.7%、「病院に入院して介護を受けたい」が2.8%と続いています。なお、「わからない」が12.5%となっているほか、「一概に言えない」が11.8%です。



(ウ) 現在のサービスの利用

	全体	利用している	利用していない	無回答
事業対象者	3,106	1,411	925	770
要支援認定者	100.0	45.4	29.8	24.8
要介護認定者	4,425	3,312	390	723
	100.0	74.8	8.8	16.3

(エ) サービスを利用しない理由

	全体	自分でまだできるから	利用したいサービスがないから	いるから	病院に入院して	家族等の介護で十分だから	他人に介護されるのが嫌だから	大きいためから	利用料の負担が大きいから	サービスを利用しているから	介護保険以外のサービスを利用しているから	その他	特になし	わからない	無回答
事業対象者・要支援認定者	925	590	69	7	134	44	103	14	53	36	56	63			
	100.0	63.8	7.5	0.8	14.5	4.8	11.1	1.5	5.7	3.9	6.1	6.8			
要介護認定者	390	152	28	42	114	56	37	9	40	13	20	45			
	100.0	39.0	7.2	10.8	29.2	14.4	9.5	2.3	10.3	3.3	5.1	11.5			

- 要介護認定者集計でも「現在の住まいでの介護」希望者は45.5%と最も多い
- サービスの利用状況は、事業対象者・要支援認定者29.8%、要介護認定者8.8%が利用しておらず、その理由はいずれも「自分で出来るから」が最も多く、次いで「家族等の介護で十分だから」



(オ) 在宅を続けるためには (本人) 【複数回答】

	全体	介護する家族が休息をとれるようなサービス	家族等の介護者が介護しやすい住環境	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ柔軟に受けられるサービス	24時間、定期的な巡回と随時の訪問で介護や看護、緊急時の対応などが受けられるサービス	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ介護や看護を柔軟に受けられるサービス	困ったときに気軽に介護相談ができる場所	介護する家族同士がお互いに知識や悩みを共有できる場所	その他	無回答
要介護認定者	4,425 100.0	2,257 51.0	1,355 30.6	1,837 41.5	1,420 32.1	1,642 37.1	1,584 35.8	502 11.3	177 4.0	587 13.3
施設利用者	136 100.0	62 45.6	55 40.4	48 35.3	79 58.1	58 42.6	51 37.5	17 12.5	21 15.4	3 2.2

(カ) 在宅介護の継続に必要なもの (在宅介護を希望する主介護者) 【複数回答】

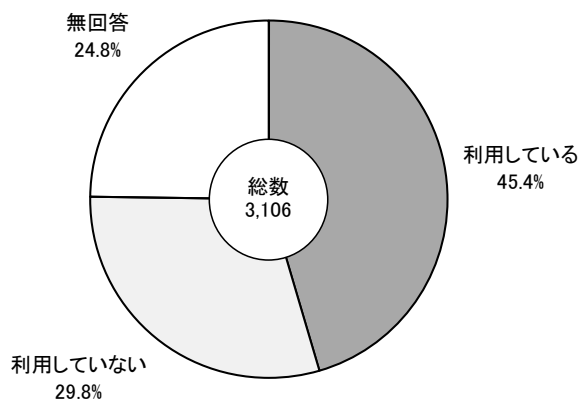
	全体	介護する家族が休息をとれるようなサービス	介護しやすい住環境	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ柔軟に受けられるサービス	24時間、定期的な巡回と随時の訪問で、介護や看護、緊急時の対応などが受けられるサービス	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、介護や看護を柔軟に受けられるサービス	困ったときに気軽に介護相談ができる場所	介護する家族同士がお互いに知識や悩みを共有できる場所	家族が介護するための技術を習得できる場所	その他	無回答
事業対象者 要支援認定者	489 100.0	210 42.9	182 37.2	224 45.8	134 27.4	188 38.4	241 49.3	52 10.6	77 15.7	11 2.2	12 2.5
要介護認定者	1,547 100.0	958 61.9	582 37.6	854 55.2	517 33.4	794 51.3	665 43.0	193 12.5	318 20.6	42 2.7	56 3.6

在宅介護を続けるために必要なサービス

- 「在宅を続けるために」必要なサービスは、要介護認定者の場合、本人・介護者共に、「介護する家族が休息をとれるサービス」、「デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ柔軟に受けられるサービス」の順に多い
- また、事業対象者・要支援認定者の介護者は、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所」「デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ柔軟に受けられるサービス」の順に多い

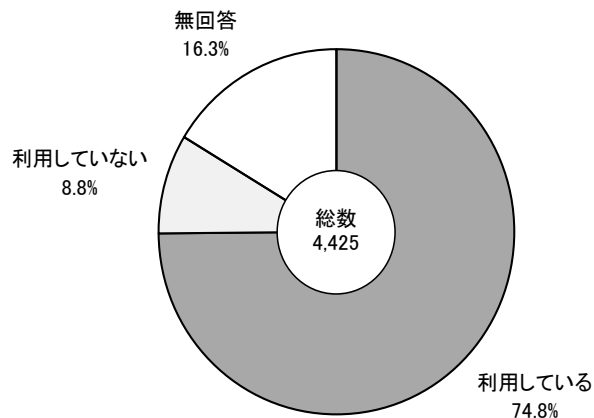
あなたは、介護保険サービス等を利用していますか。(どちらかに○)

<事業対象者・要支援認定者>



「利用している」が 45.4%、「利用していない」が 29.8%となっています。

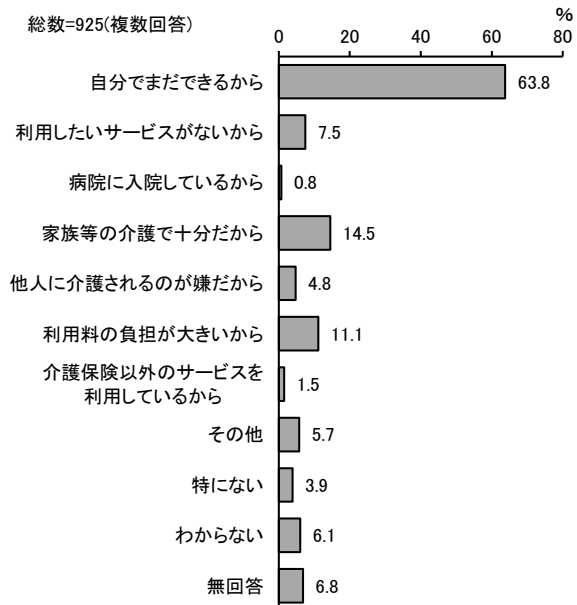
<要介護認定者>



「利用している」が 74.8%、「利用していない」が 8.8%となっています。

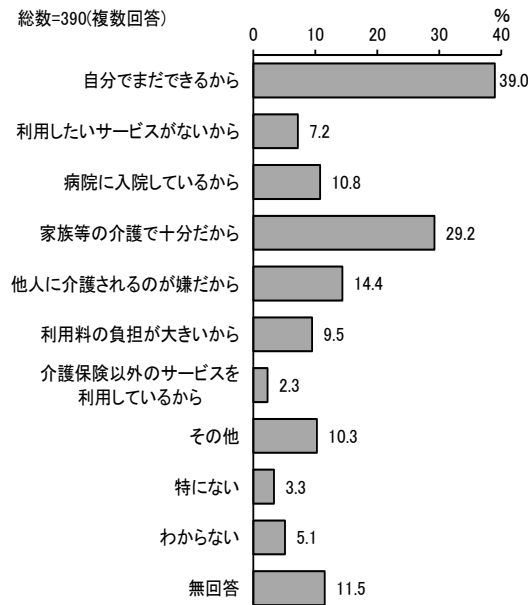
介護保険を「利用していない」と回答した方対象、どのサービスも利用していない理由

<事業対象者・要支援認定者>



「自分でまだできるから」が 63.8%と最も多く、次いで「家族等の介護で十分だから」が 14.5%、「利用料の負担が大きいため」が 11.1%、「利用したいサービスがないから」が 7.5%と続いています。

<要介護認定者>



「自分でまだできるから」が 39.0%と最も多く、次いで「家族等の介護で十分だから」が 29.2%、「他人に介護されるのが嫌だから」が 14.4%、「病院に入院しているから」が 10.8%と続いています。なお、「その他」としては「入院・入所しているから」「手続きが面倒だったり、サービスについてわからないから」「サービスの利用に向けて検討及び申請をしている」が多くなっています。

## 6. 介護サービスと保険料の考え方

	全体	現在のサービス水準を維持するために必要な保険料引き上げであれば、やむを得ない	現在以上にサービスを充実するために、さらに保険料負担が引き上げられてもやむを得ない	保険料負担の引き上げを抑えるため介護に関する希望を可能な限り実現しつつ費用負担を軽減する対策も講じる	保険料を現状程度に維持することが重要でありサービスが削減されても構わない	わからない	無回答
若年者	1,364 100.0	274 20.1	71 5.2	704 51.6	53 3.9	220 16.1	42 3.1
一般高齢者	4,327 100.0	992 22.9	209 4.8	1,821 42.1	214 4.9	704 16.3	387 8.9
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	724 23.3	178 5.7	965 31.1	167 5.4	423 13.6	649 20.9
要介護認定者	4,425 100.0	924 20.9	192 4.3	1,536 34.7	166 3.8	679 15.3	928 21.0
施設利用者	842 100.0	166 19.7	33 3.9	283 33.6	20 2.4	287 34.1	53 6.3

### 介護サービスと保険料の考え方

- どの層も「保険料負担の引き上げを抑えるために介護に関する希望を可能な限る実現しつつ費用負担を軽減する対策を講じる」が最も多く、次いで「現在のサービス水準を維持するために必要な保険料引き上げであればやむを得ない」

## 7. ダブルケア（主な介護者が回答）

		全体	介護のみしている (していた)	子育てのみしている (していた)	どちらもしている (していた)	どちらもしていない (していなかった)	無回答
(主な介護者が) 若年者		430 100.0	126 29.3	32 7.4	104 24.2	101 23.5	67 15.6
介護される人の状態	事業対象者 要支援認定者	1,319 100.0	286 21.7	104 7.9	144 10.9	548 41.5	237 18.0
	要介護認定者	3,410 100.0	1,137 33.3	262 7.7	477 14.0	1,267 37.2	267 7.8

### ダブルケア（子育ての定義は設定していない）

- ▶ 子育てと介護が重なっている、または重なっていた人の割合は、若年者が 24.2%、要介護認定者 14.0%、事業委対象者・要支援認定者 10.9%の順

## 8. 介護離職（主な介護者が回答）

		全体	辞めた	いる を 検 討 し て	辞めること か っ た	辞めない も り (辞めな か っ た)	転職した	転職を検討 し て い る	仕事を し て い な か っ た (し て い な い)	仕事を し て い な い (し て い な か っ た)	無回答
(主な介護者が) 若年者		430 100.0	41 9.5	15 3.5	229 53.3	15 3.5	3 0.7	94 21.9	33 7.7		
介護される人の状態	事業対象者 要支援認定者	1,319 100.0	78 5.9	26 2.0	318 24.1	21 1.6	12 0.9	485 36.8	379 28.7		
	要介護認定者	3,410 100.0	473 13.9	119 3.5	888 26.0	70 2.1	21 0.6	1,368 40.1	471 13.8		

### 介護離職

- ▶ 主な介護者が若年者（40－64歳）である場合、「仕事を辞めない、辞めなかった、辞めないつもり」53.3%、「仕事をしていなかった、していない」21.9%、「辞めた」は9.5%
- ▶ 介護される人の状態が、「要介護認定者」の場合、「辞めないつもり」26.0%、「辞めた」13.9%、「辞めること検討」3.5%

(ア) 仕事と介護の両立 (主な介護者が回答)

	全体	労働時間を調整 (短時間勤務や残業免除等)する仕 組みの充実	介護のための在宅勤務の充実	す い 環 境 休 暇 (年休や介護休業等)の充実、または取得しや	仕事と介護の両立に関する相談先の充実	介護サービスに関する情報の普及啓発	早朝や夜間も対応できるデイサービスの充実	ショートステイなど、休息のためのサービスの充実	必要なときにいつでも利用できるサービスの充実	定期的に自宅を巡回してくれるサービスの充実	施設サービスの充実	介護しやすい住環境の整備	要介護者や家族・親族の理解と協力	その他	無回答	
(主な介護者 が)若年者	430 100.0	218 50.7	84 19.5	192 44.7	83 19.3	97 22.6	168 39.1	176 40.9	241 56.0	106 24.7	157 36.5	110 25.6	175 40.7	15 3.5	31 7.2	
介護される人の 状態	事業対象 者・要支 援認定者	1,319 100.0	295 22.4	159 12.1	231 17.5	142 10.8	167 12.7	190 14.4	236 17.9	461 35.0	200 15.2	178 13.5	180 13.6	232 17.6	50 3.8	468 35.5
	要介護認 定者	3,410 100.0	896 26.3	470 13.8	752 22.1	413 12.1	441 12.9	895 26.2	1,012 29.7	1,460 42.8	481 14.1	701 20.6	512 15.0	798 23.4	192 5.6	774 22.7

仕事と介護の両立のために必要なサービス

- 「仕事と介護の両立」について、休暇や労働時間短縮等労働環境に関する内容を除くと、必要なサービスは、「必要な時にいつでも利用できるサービスの充実」56.0%が最も多く、「ショートステイなど休息のためのサービスの充実」40.9%、「要介護者や家族・親族の理解と協力」40.7%、「早朝や夜間も対応できるデイサービスの充実」39.1%の順

(イ) 今後の介護

	全体	可能な限り在宅で	必要に応じて施設への入所	できるだけ施設への入所	その他	一概に言えない	わからない	無回答
事業対象者	1,319	489	206	41	1	121	118	343
要支援認定者	100.0	37.1	15.6	3.1	0.1	9.2	8.9	26.0
要介護認定者	3,410	1,547	750	202	21	232	140	518
	100.0	45.4	22.0	5.9	0.6	6.8	4.1	15.2

今後の介護

- ▶ 今後の介護については、「可能な限り在宅で」が要介護認定者 45.4%、事業対象者・要支援認定者 37.1%、次いで「必要に応じて」の順

(ウ) 在宅介護の継続に必要なもの（在宅介護を希望する主介護者）

【複数回答】（再掲）

	全体	介護する家族が休息をとれるようなサービス	介護しやすい住環境	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、柔軟に受けられるサービス	24時間、定期的な巡回と随時の訪問で、介護や看護、緊急時の対応などが受けられるサービス	デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、介護や看護を柔軟に受けられるサービス	困ったときに気軽に介護相談ができる場所	介護する家族同士がお互いに知識や悩みを共有できる場所	家族が介護するための技術を習得できる場所	その他	無回答
事業対象者・要支援認定者	489	210	182	224	134	188	241	52	77	11	12
	100.0	42.9	37.2	45.8	27.4	38.4	49.3	10.6	15.7	2.2	2.5
要介護認定者	1,547	958	582	854	517	794	665	193	318	42	56
	100.0	61.9	37.6	55.2	33.4	51.3	43.0	12.5	20.6	2.7	3.6

在宅介護の継続に必要なもの

- ▶ 事業対象者・要支援認定者の介護では、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所」49.3%が最も多く、「デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、柔軟に受けられるサービス」45.8%、「介護する家族が休息をとれるようなサービス」42.9%の順
- ▶ 要介護認定者の介護では、「介護する家族が休息をとれるようなサービス」61.9%が最も多く、「デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、柔軟に受けられるサービス」55.2%、「デイサービスを中心に訪問や宿泊を組み合わせ、介護や看護を柔軟に受けられるサービス」51.3%の順

9. 充実させた方がいい認知症対策 【複数回答】

	全体	認知症予防教室の開催など、自らが認知症を予防できる取組み	認知症の早期発見・早期診療の仕組みづくり	認知症サポーター養成講座など、認知症への理解を深める取組み	認知症の人や家族を支援してくれるやさしい地域づくり	近隣住民など身近な人が認知症の人や家族を支援してくれるやさしい地域づくり	介護者のつらいなど、介護している家族の支援	成年後見制度や虐待防止など、権利を守る対策	徘徊症状のある高齢者の安全を守る仕組み	その他	無回答
若年者	1,364 100.0	636 46.6	912 66.9	417 30.6	562 41.2	571 41.9	348 25.5	658 48.2	25 1.8	74 5.4	
一般高齢者	4,327 100.0	2,158 49.9	2,820 65.2	1,259 29.1	1,875 43.3	1,456 33.6	1,018 23.5	1,851 42.8	49 1.1	519 12.0	
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	1,159 37.3	1,444 46.5	544 17.5	870 28.0	597 19.2	409 13.2	831 26.8	65 2.1	926 29.8	
要介護認定者	4,425 100.0	1,259 28.5	2,007 45.4	852 19.3	1,422 32.1	994 22.5	665 15.0	1,557 35.2	139 3.1	1,198 27.1	

充実させた方がいい認知症対策

- どの層も「認知症の早期発見・早期診療の仕組みづくり」が最も多い
- 次に、若年者、要介護認定者は「徘徊症状のある高齢者の安全を守る仕組み」、「認知症予防教室の開催など自ら認知症を予防できる取組」、「近隣住民など身近な人が認知症の人や家族を支援してくれる優しい地域づくり」の順
- 一般高齢者、事業対象者・要支援認定者の場合は、「認知症予防教室の開催など、自らが認知症を予防できる取組み」、「近隣住民など身近な人が認知症の人や家族を支援してくれる優しい地域づくり」の順に多い

## 10. 規範的統合

### (ア) 介護保険法第1条（目的）

	全体	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない	無回答	知っている（計）	知らない（計）
若年者	1,364 100.0	268 19.6	456 33.4	446 32.7	187 13.7	7 0.5	724 53.0	633 46.4
一般高齢者	4,327 100.0	857 19.8	1,782 41.2	1,050 24.3	333 7.7	305 7.0	2,639 61.0	1,383 32.0
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	689 22.2	1,357 43.7	717 23.1	198 6.4	145 4.7	2,046 65.9	915 29.5
要介護認定者	4,425 100.0	817 18.5	1,334 30.1	1,202 27.2	824 18.6	248 5.6	2,151 48.6	2,026 45.8
施設利用者	842 100.0	111 13.2	202 24.0	211 25.1	279 33.1	39 4.6	313 37.2	490 58.2

### (イ) 介護保険法第4条（国民の努力及び義務）

	全体	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない	無回答	知っている（計）	知らない（計）
若年者	1,364 100.0	177 13.0	330 24.2	589 43.2	263 19.3	5 0.4	507 37.2	852 62.5
一般高齢者	4,327 100.0	425 9.8	1,362 31.5	1,639 37.9	609 14.1	292 6.7	1,787 41.3	2,248 52.0
事業対象者 要支援認定者	3,106 100.0	533 17.2	1,233 39.7	872 28.1	254 8.2	214 6.9	1,766 56.9	1,126 36.3
要介護認定者	4,425 100.0	602 13.6	1,189 26.9	1,363 30.8	1,018 23.0	253 5.7	1,791 40.5	2,381 53.8
施設利用者	842 100.0	54 6.4	168 20.0	227 27.0	357 42.4	36 4.3	222 26.4	584 69.4

### 規範的統合

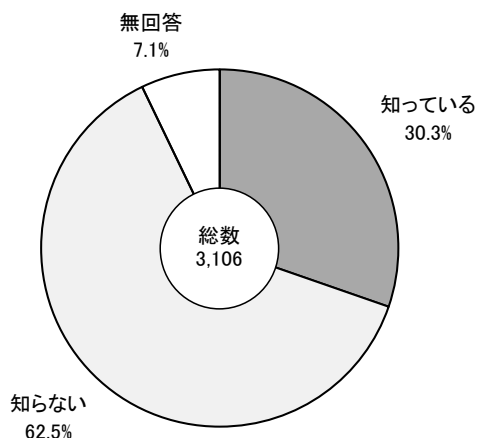
- 「介護保険の目的」は、施設利用者以外すべての層が、「知っている」人が、「知らない」より上回った。また、「国民の努力や義務」については、事業対象者・要支援認定者以外は「知らない」方が「知っているより」上回っている



## (ウ) 制度改正

平成 26 年度に介護保険制度が改正され、市では平成 27 年度より新制度（介護予防・日常生活支援総合事業）を開始しています。

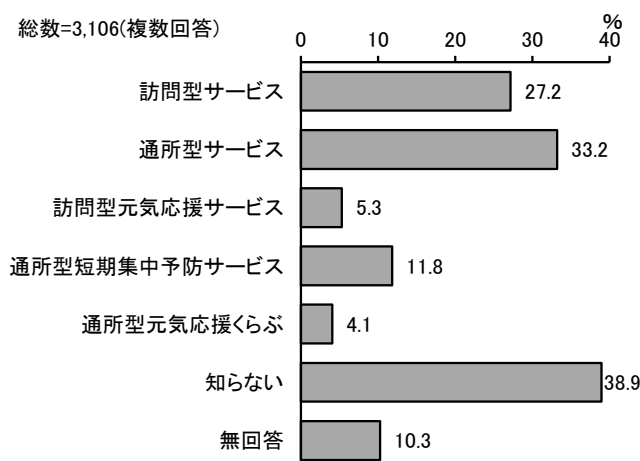
介護保険の要介護（要支援）認定を受けなくても、基本チェックリスト（25 項目）により事業対象者として特定された場合は、市で実施している通所型サービスや訪問型サービス等を利用できるようになったことを知っていますか。（どちらかに○）



「知っている」が 30.3%  
「知らない」が 62.5%となっています

介護予防・日常生活支援総合事業として、以下の事業を実施していることを知っていますか。（あてはまるもの全てに○）

「通所型サービス（制度改正前のデイサービスに相当）」が 33.2%と多く、次いで「訪問型サービス（制度改正前のホームヘルプサービスに相当）」が 27.2%、「通所型短期集中予防サービス（いきいきトレーニング）」が 11.8%、「訪問型元気応援サービス（生活支援コース・困りごとコース）」が 5.3%と続いています。なお、「知らない」が 38.9%で最も多くなっています。



### 制度改正について

- 平成 27 年制度改正が施行されたことについて、「知らない」62.5%、「知っている」30.3%
- 介護予防・日常生活支援総合事業のサービスについては、「知らない」38.9%が最も多く、「通所サービス」33.2%、「訪問サービス」27.2%、「通所型短期集中予防サービス」11.8%

## 11. 生活支援ニーズ

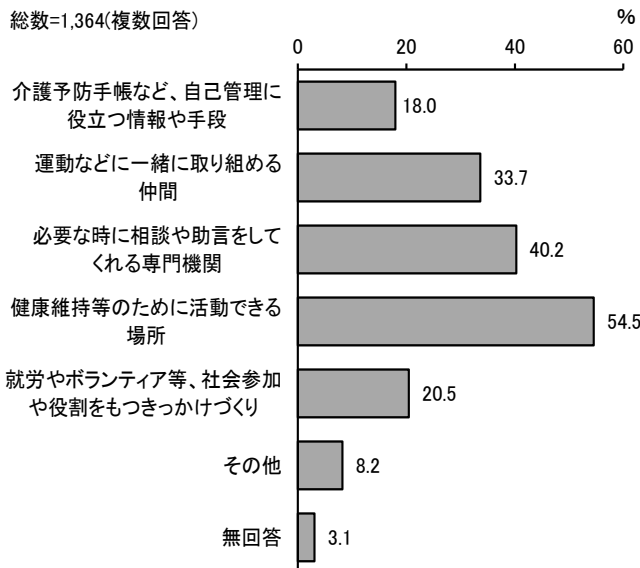
### (ア) 日々の生活における考え方

	全体	自分でできることは、人の手を借りずに済むよう、心身の維持・向上に努めたい	自分でできることでも、家族や人の手を借りてやってももらいたい	自分でできないことは、家族に手伝ってもらいたい	自分でできないことは、近所の人に手伝ってもらいたい	自分でできないことは、公的サービスを使い専門家の助けを借りたい	無回答
若年者	1,364 100.0	1,074 78.7	49 3.6	139 10.2	- -	66 4.8	36 2.6
一般高齢者	4,327 100.0	3,524 81.4	38 0.9	194 4.5	7 0.2	153 3.5	411 9.5
事業対象者・要支援認定者	3,106 100.0	1,914 61.6	57 1.8	373 12.0	14 0.5	290 9.3	458 14.7

### (イ) 「若年者」「事業対象者・要支援認定者」 単純集計から

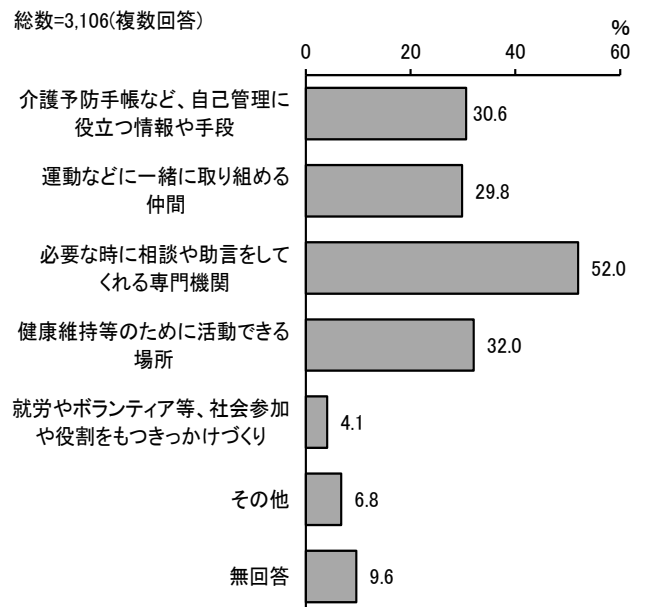
あなたが健康を維持していくためには、どのようなものがあればよいと思いますか。

#### <若年者>



「健康維持等のために活動できる場所」が**54.5%**と最も多く、次いで「必要な時に相談や助言をしてくれる専門機関」が**40.2%**、「運動などと一緒に取り組める仲間」が**33.7%**、「就労やボランティア等、社会参加や役割をもつきっかけづくり」が**20.5%**と続いています。

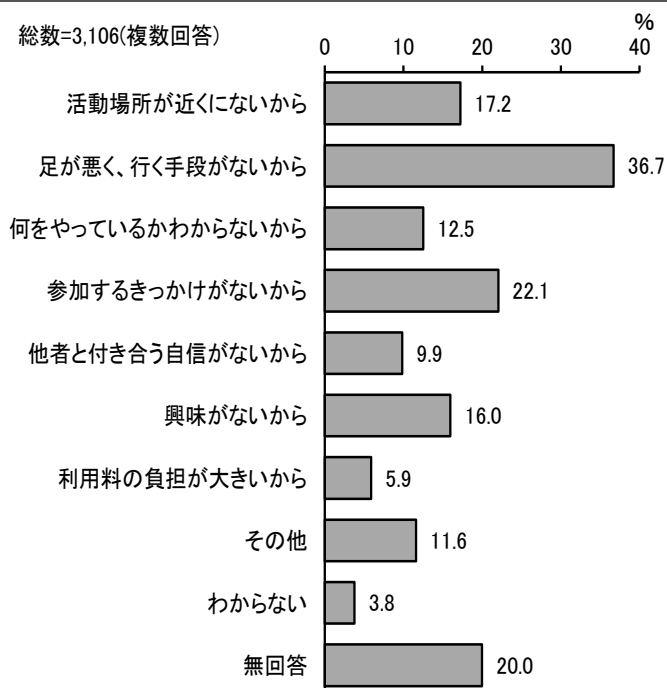
#### <事業対象者・要支援認定者>



「必要な時に相談や助言をしてくれる専門機関」が**52.0%**と最も多く、次いで「健康維持等のために活動できる場所」が**32.0%**、「介護予防手帳など、自己管理に役立つ情報や手段」が**30.6%**、「運動などと一緒に取り組める仲間」が**29.8%**と続いています。

(ウ) 「事業対象者・要支援認定者」 単純集計から

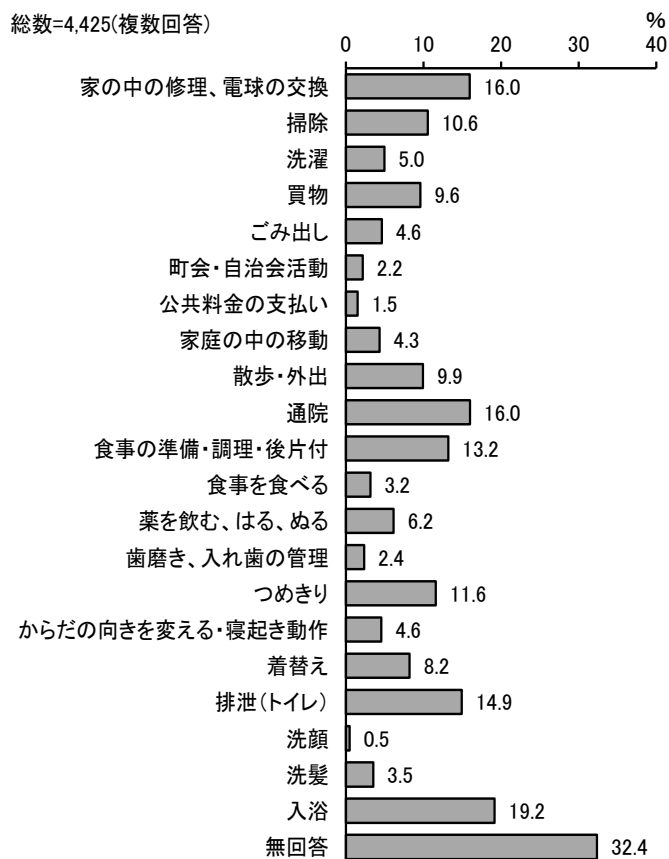
会・グループに1つでも（参加）していない場合はその理由を、いずれかに参加している場合は一般的に高齢者が参加しない理由として考えられるものを教えてください。



「足が悪く、行く手段がないから」が **36.7%** と最も多く、次いで「参加するきっかけがないから」が **22.1%**、「活動場所が近くにないから」が **17.2%**、「興味がないから」が **16.0%**と続いています。なお、「その他」としては「体調や健康状態に不安があるから」「家族の介護をしているから」が多くなっています。

(エ) 「要介護認定者」 単純集計から

あなたは、普段の生活で特に困っていることがありますか。(3つまで○)



「入浴」が **19.2%** と最も多く、次いで「家の中の修理、電球の交換、部屋の模様替え」と「通院」がそれぞれ **16.0%**、「排泄(トイレ)」が **14.9%**と続いています。

## 生活支援ニーズ

- 日々の生活における考え方について、「自分で出来ることは、人の手を借りずに済むよう、心身の維持・向上に努めたい」がいずれの層も最も多く、「自分でできないこと」に対しての手伝いは、家族、公的サービスの順で、「地域の人の手伝い」については極僅か  
「自分でできることでも、家族や人の手を借りてやってもらいたい」は、若年者 3.6%、事業対象者・要支援認定者 1.8%、一般高齢者 0.9%
- 健康維持に必要なものは、若年者は「活動できる場所」「必要な時に相談助言してくれる専門機関」「運動など取り組める仲間」の順  
事業対象者・要支援認定者は、「必要な時に助言相談してくれる専門機関」「活動できる場所」「自己管理に役立つ情報」の順
- 事業対象者・要支援者より  
活動等に参加しない理由について、「足が悪く、行く手段がないから」36.7%、「参加するきっかけがない」22.1%、「活動場所が近くにない」17.2%
- 要介護認定者より  
「普段の生活で困っている事」について、「無回答」（困っていないとみるか？）32.4%  
を除き、「入浴」19.2%、「家の中の修理、電球の交換」と「通院」16.0%と同率、排せつ（トイレ）14.9%、「食事の準備、調理、後片付け」13.2%の順